

No 28

【2】〔英文解釈〕《大阪大》

(A) トップスプリンターが陸上大会の決勝のスタートラインに並ぶとき、身体能力の差ではなくて精神力の差で金メダルの行方が決まることがありうる。100分の1秒レベルの差で勝ち負けが決まる競技において、選手は利用できるあらゆる利点を活かす必要がある。だから、プレッシャーに対処して、それに伴う感情をコントロールすることができることは重要である。

(B) チンパンジーが一切れの果物をじっと見たり、ゴリラが近づいてくるオスを追い払うために胸をたたくときには、我々はこうした行動の中にわずかばかりでも自分たちの姿を重ねたり、これらの動物が何を考えているのかを想像しないではいられない。何と言っても、人間は彼らと同様に類人猿であり、彼らの知性は人間の知性の劣化版、あるいは少なくともおなじみの版のように感じられることが多い。

【3】〔長文総合〕《大阪大》

〔解答〕設問(1) (a) (n) (b) (h) (c) (i) (d) (二) 設問(2) (i) (n) (ii) (h) (iii) (h) 設問(3) 会話の相手
設問(4) 世界がますます急速に国際化を進め、特に南半球から北半球への大規模な人口移動が続いているのに伴い、様々な問題が生じ、往々にして摩擦も激しくなる。 設問(5) 私は、その医師たちが患者をどのように扱うかを予測することができた。 設問(6) 経営管理の訓練士が外国での振る舞い方について顧客に助言を与える際、顧客に外国でのふるまい方を助言する事業経営の訓練士 設問(7) (二)

〔全訳〕《適応理論について》

適応理論では、人々が互いに言葉を交わすとき、話題や状況、ともに会話に関わっている他の人たちを考慮するために(つまり、自分を適応させるために)、自分のふるまいや話し方を調整するとされている。簡単な例を2つ挙げると、外国人には普通よりもゆっくりと話しかけ、幼児を相手にしているときは赤ちゃん言葉を使う。人が互いに意思疎通する方法は、そのときどきに問題になっている社交の種類にとって重要なものである。したがって、友達同士や恋人同士は(そしてとりわけ友達や恋人になりかけている人たちは)、あらゆる努力を払って、物腰、なまり、日調、話題という点で相手と同じになろうとする。逆に、距離をおきたいとか異議を唱えたいとか思っている人は、ほとんどいつも、ことさらに相手と違う話し方を選択するだろう。

こうした考え方が重要なのは、移民や外国人がいたところで経験するさまざまな困難が、部分的には、彼らの話し方が違っていたり、意思疎通をしようとするときに母語話者たちに「合わせる」能力に限界があったりすることから生じているからである。謎界のグローバル化がこのままさらに急速に進み、とりわけ南半球から北半球への大規模な人口移動が続く中で、そうした問題が、そして多くの場合、摩擦が増加していく。適応理論は、表面的には単純だが、どのようにして意思疎通の誤りや誤解が起こり、どのようにすれば事態が改善できるかということに対する洞察を与えてくれる。

意思疎通上の困難は、いたるところに存在する移民や外国人に影響を及ぼすだけではない。そうした困難は、同胞市民にも影響する。階級や知性や地位に関して、社会的に期待されていることや信じられていることは、なまりやその他の話し方から影響を受けており、だからこそ、ある特定の階級や地域の出の人たちは仕事を探すとき(地元から遠く離れている場合は特に)、若い頃に身につけた意思伝達の手段のせいで不利な立場に置かれることがあるのだ。

このように、適応の欠如は、ある特定の状況下において何らかの外集団とされたどんな集団に属する人にとっても、問題の種となるのである。適応理論は、1970年代初期に、ハワード・ジャイルズが考え出したもので、意思疎通に関する彼の最初の洞察は、生まれ故郷のウェールズの診療所で働いているときに生まれた。彼は「私が内科医のところへ連れて行った患者がただ日を開いて話さえすれば、んなふうに対処するか予想できた」と書いている。彼が展開した考え方は、広告主や党派政治戦略の研究者たちが、狙った対象に最も効果的にメッセージを伝える方法を考える際に、また、事業経営の訓練士が、顧客に外国でのふるまい方を助言する際に、応用されてきた。

適応の限界は、後者の場合で実証されている。日本人実業家で顧客や共同経営者になりそうな相手を喜ばせようと、過剰適応してしまった西洋人実業家の場合、彼が払った努力が実際には逆効果だったことが、さまざまな研究で明らかになったのだ。危険なのは、相手のまねを伴うような行動は、あざけりのように見えてしまうことがあり、最も控えめに言っても、相手におもねるように見えてしまいかねないということである。日本人の場合、日本の実業本は外国人が外国人らしくあることの方を好ましく思うのであり、したがって、どうやら彼ら自身の期待通りに、彼らが予定していた通りのやりとりの仕方と一致していることの方を好むようなのである。適応理論は、とりわけ、受け入れる側の共同体に移民集団を統合していく方法を考えるときに、特別の価値をもつ。ここで「統合」というのは、同化と多文化主義の中間の言

葉であり、まさに移民が経済的に成功しつつ、移り住んだ共同体とうまくやっていく方法を与えることを意味する。大規模な移住が起こったことで、移民にありとあらゆる適応を期待するのは無駄なことだという認識も生じた。そしてその結果、医療、教育、社会福祉事業、治安維持、司法サービスを提供する最前線で、言語的、文化的要因を考慮に入れるという、移民を受け入れる側の調整が行われるようになっている。
